

平塚市沖のサヨリ船曳網で漁獲されたツラナガコビトザメ

山田 和彦・瀬能 宏・加藤 充宏・工藤 孝浩

Kazuhiko Yamada, Hiroshi Senou, Mitsuhiro Kato and Takahiro Kudo: A Record of Pygmy Shark *Squaliolus aliae* (Dalatiidae, Squaliformes) from Sagami Bay

Summary. A specimen of *Squaliolus aliae* was collected by a seine net at surface off Hiratsuka, central Sagami Bay. This is first record on the bases of specimen from the bay, where is the northernmost locality of this species.

はじめに

ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae* Teng, 1959 (ヨロイザメ目ヨロイザメ科) は、成魚でも全長が 22 cm までの小型のサメである (波戸岡, 2000; Hatoooka, 2002)。昼間は水深 2000 m まで潜行するが、夜間は表層 150m 以浅に浮上することが知られており、日本からオーストラリアにかけて局所的に分布する (Last & Stevens, 2009)。国内では相模湾以南に分布するとされているが (波戸岡, 2000; Hatoooka, 2002), 過去の経緯を精査したところ、今回の平塚市沖の記録が標本に基づく相模湾からの確実な記録となるので、ここに報告する。なお、本研究に用いた標本は横須賀市自然・人文博物館魚類資料 (YCM-P) として登録、保管した。

記 載

採集場所: 神奈川県平塚市南方沖 3 km の表層 (図 1 地点 1)
採集年月日: 2012 年 3 月 22 日
採集方法: サヨリ船曳網
採集者: 杉山 武
標本番号: YCM-P 45082 (図 2)
全長 70.4 mm, 頭長 21.0 mm, 吻長 8.1 mm, 両眼間隔幅 8.2 mm, 眼径 4.5 mm

全長は頭長の 3.5 倍, 眼径は両眼間隔幅の 54.9%, 眼径は吻長の 55.6%, 体はやや細長い紡錘型。上唇に肉質突起がある。眼の上縁に窪みがある。体色は、固定時の色彩は黒色であるが、鮮時はやや緑色がかった黒色。

胸鰭, 第 1 背鰭, 臀鰭に黒色の斑紋がある。

採集日の水温は 15.8℃で、黒潮は相模湾から離れ、ほぼ直行していた。

備 考

ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae* は同属のオオメコビトザメ *Squaliolus laticaudus* Smith & Radcliffe, 1912 に似るが、上唇に肉質突起をもつこと (オオメコビトザメにはない)、眼の上縁に凹みがあること (ない)、眼径は両眼間隔幅の 40-70% (ほとんどが 60% 以下) の範囲にあること (73-86%), 眼径は吻長の 43-66% (全長 120 mm 以下の幼魚では稀に 60% を越える) の範囲にあること (61-82%) により区別される (Sasaki & Uyeno, 1986; 田中丸他, 1999; 波戸岡,

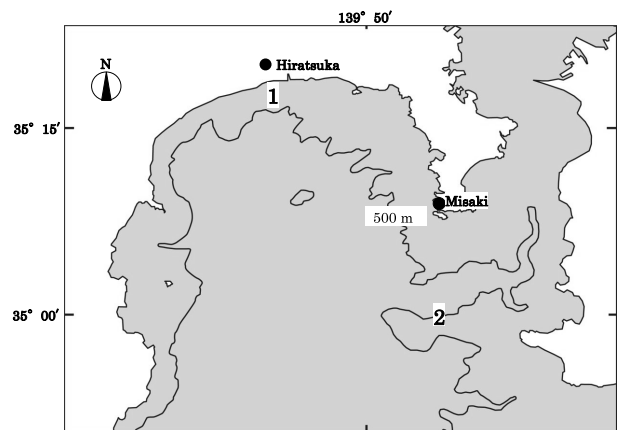


図 1. 採集地点.

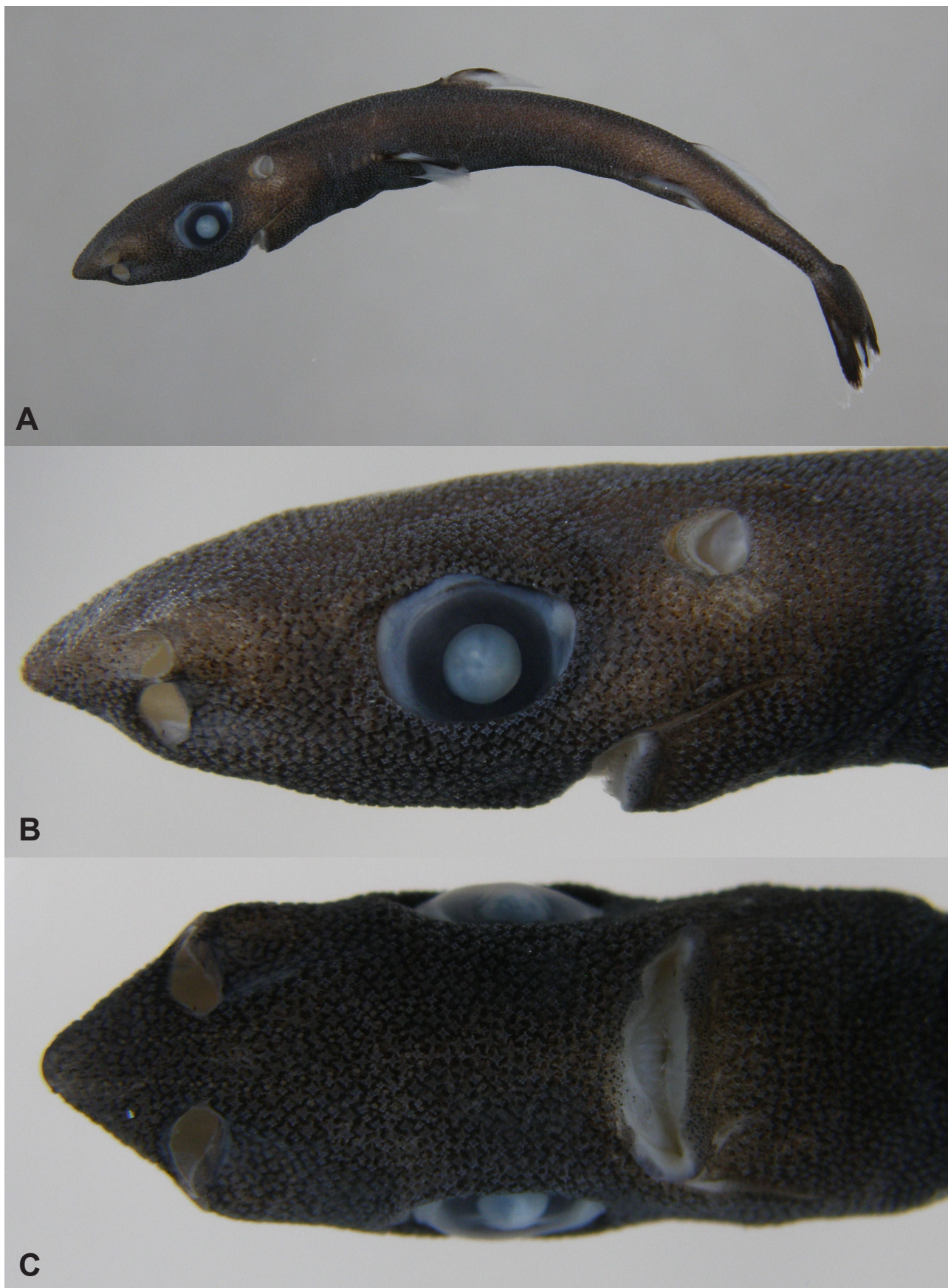


図 2. ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae*, YCM-P 45082, 平塚市沖, サヨリ船曳網, 70.4 mm TL. A: 全身側面; B: 頭部側面;
C: 腹側面から見た口部.

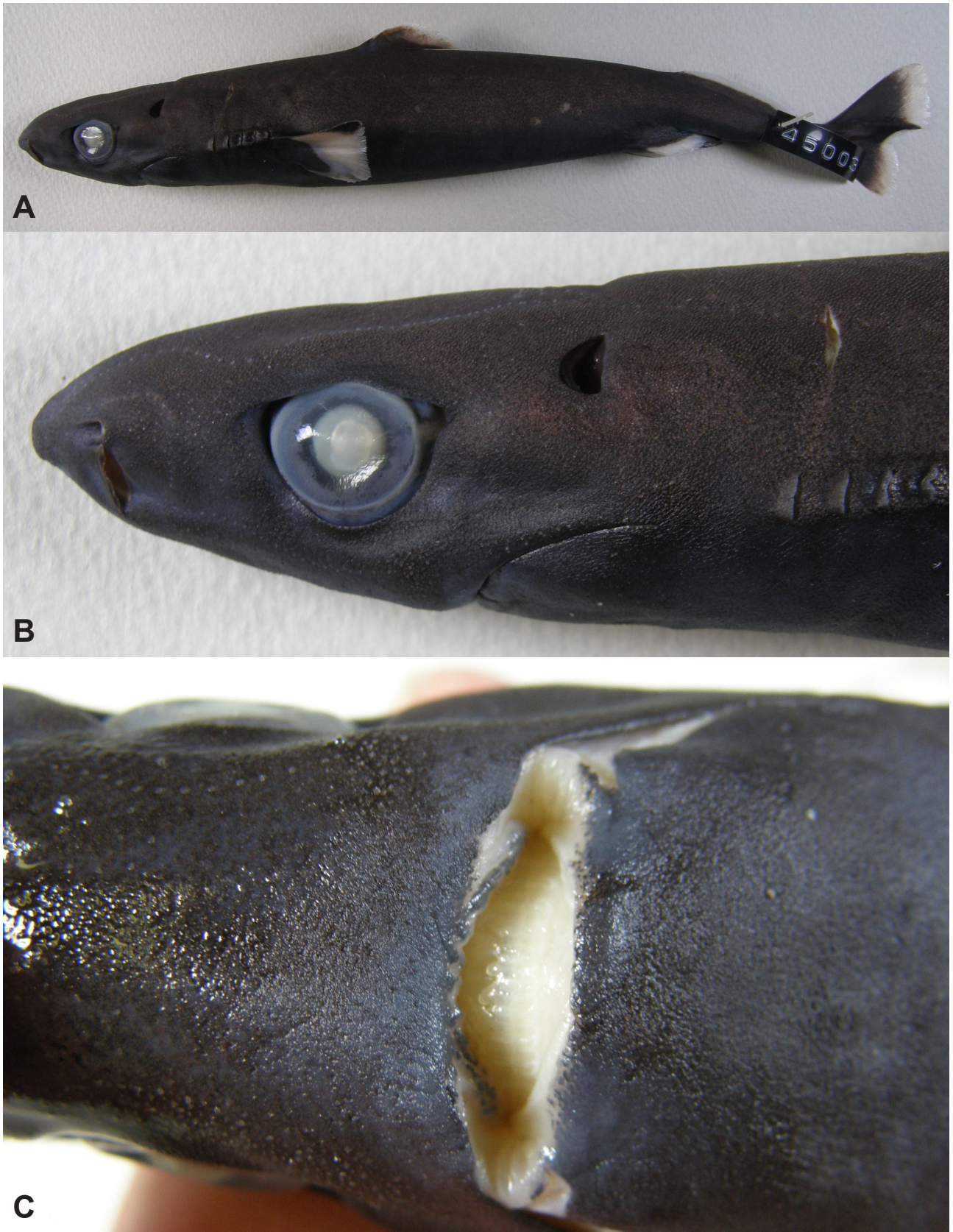


図 3. ツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae*, YCM-P 45003, 城ヶ島南方水深 300 m, 釣り, 246.4 mm TL. A : 全身側面 ; B : 頭部側面 ; C : 腹側面から見た口部.

2000, 2002)。

今回得られた標本は、上記特徴に基づきツラナガコビトザメ *Squaliolus aliae* に同定された。

相模湾の魚類相をまとめた Senou *et al.* (2006) によるツラナガコビトザメの相模湾からの分布記録は Hatooka (2002) に基づくが、Hatooka の分布記録は Sasaki & Uyeno (1987) の引用と思われる。Sasaki & Uyeno (1987) は本種とオオメコビトザメ *Squaliolus laticaudus* Smith & Radcliffe, 1912 との比較の中で、本種の分布域に相模湾を含めているが、根拠とされた文献 (Abe, 1962 や Abe & Minoshima, 1971) に相模湾の記録はなく、彼らが使用した標本に相模湾のものは含まれていない。Abe & Minoshima (1971) のツラナガコビトザメの産地は駿河湾であるが、同報告が相模湾産魚類に関するものであること、ツラナガコビトザメの写真の説明に産地の記述がないこと、相模湾から記録されたオオメコビトザメにツラナガコビトザメの学名が誤用されていることから、Sasaki & Uyeno (1987) は Abe & Minoshima (1971) を読み誤った可能性が高い。

一方、仲谷・白井 (1984, 1988) は本種の分布域に相模湾を含めているが、その根拠は示されなかった。白井 (私信) によれば、仲谷・白井 (1984, 1988) の相模湾の記録は小田原市近郊の市場で得た個体に基づくが、状態がよくなかったため、標本として保管することはしなかったという。したがって、本種の標本に基づく相模湾からの確実な記録は、本報告が最初となる。

補 足

平塚沖の標本のほかに、城ヶ島南方水深 300 m の標本も調べることができた。

採集場所：城ヶ島南方水深 300 m (図 1 地点 2)

採集年月日：2005 年 12 月 25 日

採集方法：釣り

採集者：工藤孝浩

標本番号：YCM-P 45003 (図 3)

全長 246.4 mm, 頭長 60.3 mm, 吻長 30.3 mm, 両眼間隔幅 320.6 mm, 眼径 17.8 mm

全長は頭長の 4 倍、眼径は両眼間隔幅の 58.2%, 眼径は吻長の 58.7%, 体はやや細長い紡錘型。上唇に肉質突起がある。眼の上縁に窪みがある。本個体は平塚沖より得られた個体より大きく、成魚に近い。このことより

2 例ではあるが、本種が相模湾を幅広い成長段階で利用している可能性が考えられる。

お わ り に

本報告を作成するに当たり、相模湾におけるツラナガコビトザメの採集記録について当時の状況についてご教示いただいた東京農業大学生物生産学部アクアバイオ学科の白井 滋博士、資料収集にご協力いただいた丸八丸の杉山 武氏に感謝する。また、本稿を査読いただき、有益な助言を与えられた匿名の査読者に対して深謝する。

引 用 文 献

- Abe, T., 1962. A record of a little squaloid shark, *Squaliolus laticaudus* from Suruga Bay. *Japanese Journal of Ichthyology*, 8(5/6): 147-151.
- Abe, T. & K. Minoshima, 1971. Observations on some fishes of Sagami Bay —, Part I. *UO*, (6): 1-4, 15.
- 波戸岡清峰, 2000. ヨロイザメ科. 中坊徹次 編, 日本産魚類検索: 全種の同定, 第 2 版. pp. 150-151, 1445, 東海大学出版会, 東京.
- Hatooka, K., 2002. Dalatiidae. In Nakabo, T. (ed.), *Fishes of Japan Japan with pictorial keys to the species (English ed.)*, pp. 150-151, 1444, Tokai University Press, Tokyo.
- Last, P. R. & J. D. Stevens, 2009. Smalleye Pigmy Shark. In *Sharks and rays of Australia (2nd ed.)*. ix+644 pp., CSIRO Publ., Collingwood. Harverd University Press, London.
- 仲谷一宏・白井 滋, 1984. ツノザメ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 編, 日本産魚類大図鑑. pp. 9-11, pls. 10-12, 335, 東海大学出版会, 東京.
- 仲谷一宏・白井 滋, 1988. ツノザメ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 編, 日本産魚類大図鑑, 第 2 版. pp. 9-11, 451, pls. 10-12, 335, 371, 東海大学出版会, 東京.
- Sasaki, K. & T. Uyeno, 1987. *Squaliolus aliae*, a dalatiidae shark distinct from *S. laticaudas*. *Japanese Journal of Ichthyology*, 34(3): 373-376.
- Senou, H., K. Matsuura & G. Shinohara, 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastline under the influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum, Tokyo*, (41): 389-542.
- 田中丸尚範・渋谷 武・久保田 正, 1999. 駿河湾から採集されたツラナガコビトザメ (*Squaliolus aliae*) の 2, 3 の生物学的知見. 東海大学紀要海洋学部, (48): 51-67.

山田和彦：相模湾海洋生物研究会

瀬能 宏：神奈川県立生命の星地球博物館

加藤充宏・工藤孝浩：神奈川県水産技術センター